

巖木バイパスにおける平成 24 年ハヤブサ繁殖状況について

巖木バイパスの沿線において環境省レッドリストで絶滅危惧 類に指定されているハヤブサの営巣が平成 17 年 1 月に確認されたため、本種の保護に向けて、平成 17 年 5 月に専門家からなる「巖木バイパス猛禽類調査保護検討委員会」(以下「委員会」)を設立し、平成 18 年 7 月に保全措置を決定しました。

その後、決定された保全措置に基づき、コンディショニングやモニタリング調査を実施し「委員会」の意見を聴きながら工事を進めてきたところ、現在までハヤブサは警戒行動等を示さず、工事による影響がないことが確認されています。

平成24年繁殖期は、ハヤブサつがいは前年と同一個体であることが確認されました。カメラ観察や現地観察により交尾及び求愛給餌行動が確認され、4月下旬の現地調査時には雌雄どちらかが常に巣に滞在していたことから抱卵又は育雛を行っていることが示唆され、繁殖が順調に進行していると思われました。

しかし、5月上旬以降、雌の出現がみられなくなり、雄による餌運び等の繁殖活動に関連する行動が確認されなかったことから、平成24年は繁殖しなかったものと判断できます。

繁殖活動へ影響を及ぼした可能性として下記が考えられます。

小動物による攻撃

- ・ 5 月 5～7 日の間に再三、侵入者の攻撃が確認され、その際に褐色の動く動物が見られたことから、テンもしくはイタチ類に攻撃を受けた(いずれかのタイミングで雛または卵が捕食されたと推察される)。
- ・ 5 月 6 日には雄から雌への給餌の回数が増えたことから、雄は繁殖をやり直すため雌への給餌を行い、引きとめようとしていたものと考えられる。但し、その後も侵入者の攻撃が続き、雌は巣を放棄した。

今後もモニタリング調査を実施すると共に「委員会」の意見を聞きながら事業の進捗に合わせて保全措置を図り、ハヤブサの生息環境との調和を目指した事業の実施に取り組んでいきます。

*** 多数の人が営巣地付近に接近し、撮影行為等を行うことは、ハヤブサの繁殖活動を阻害することになるため、ハヤブサ等の飛翔状況、営巣地に関する情報の公表は、差し控えさせていただきますので、ご理解・ご協力をお願い致します。**

平成24年繁殖期における ハヤブサの繁殖状況結果及び工事状況について

平成17年1月に、ハヤブサの生息が確認されたことにより、保全措置を定め、以降、ハヤブサの保全に取り組んできました。



ここでは、

これまでのハヤブサ保全措置の経緯

平成24年繁殖期におけるハヤブサの繁殖状況結果

平成24年繁殖期における工事状況

について、報告します。

これまでのハヤブサ保全措置の経緯

〈平成18年7月の委員会で方針づけられたハヤブサ保全措置〉

- ・繁殖期は、騒音の影響が大きい工種の実施は当面見合わせる。
- ・その後の工事については、専門家の助言を得ながらコンディショニングの実施を検討する。

〈平成18年7月の委員会以降のハヤブサ生息状況〉

- ・非繁殖期(7月～12月)の工事に対してハヤブサは警戒行動等を示さなかった。

〈H21繁殖期における工事の実施検討〉

- ・平成21年2月に委員会を開催し、非繁殖期におけるハヤブサの工事に対する行動と、工事の進捗状況を報告し、繁殖期(1～6月)におけるコンディショニングの手法等を審議。

ここでコンディショニングとは、段階的に施工時間を長くすることで、ハヤブサを工事に慣れさせていく手法を示します。

〈H21繁殖期におけるコンディショニングの実施〉

- ・その結果、繁殖期(1～6月)の工事に対するコンディショニング初期段階では、専門家委員に立会して頂きハヤブサの行動を監視すること、また警戒行動等発生時における専門家委員との連絡体制を確立することで、コンディショニングを実施。

〈H22繁殖期におけるコンディショニングの実施〉

- ・平成22年1月調査で昨年とは別の新しいつがいを確認されたことから、委員会における専門家の意見を踏まえ、繁殖期(3～6月)の工事に対するコンディショニング初期段階では、専門家委員に立会して頂きハヤブサの行動を監視、また警戒行動等発生時における専門家委員との連絡体制を確立し、コンディショニングを実施。

〈H23及びH24繁殖期における通常のモニタリングの実施〉

- ・平成21年及び平成22年のコンディショニングの結果、工事を行った場合にハヤブサの行動に変化がなかったことから、コンディショニングは実施せず、通常のモニタリングを実施。

平成24年繁殖期におけるハヤブサの繁殖状況 確認のための調査方法



1. 調査方法

1.1 調査員によるモニタリング調査

見通しの良い場所に定点を複数設け、ハヤブサの飛翔状況や繁殖行動の観察等によるモニタリングを行いました。

1.2 ビデオカメラを用いたモニタリング

ビデオカメラの画像を用いて、継続的なモニタリングを実施しました。

2. 調査実施期間

2.1 調査員によるモニタリング調査

平成24年1月～5月、各月1回〔3日間/月〕

2.2 ビデオカメラによるモニタリング調査(継続中)

平成17年12月～平成24年6月

平成24年繁殖期におけるハヤブサの繁殖状況結果（1）

ハヤブサつがいの繁殖状況

➤平成23年繁殖期と同じつがいによる営巣地利用を確認。

➤交尾や求愛給餌が確認されたものの、雛への給餌等、繁殖を直接示す行動は確認されませんでした。

表 繁殖に関する行動等の経月変化

繁殖に関する行動	確認回数等 平成 24 年					合計
	1月	2月	3月	4月	5月	
交尾			7回			7回
求愛給餌				2回		2回
餌運び			1回			1回
巣へ入る (巣内滞在時間)		9回 (0:22)	23回 (0:39)	10回 (21:45)		42回 (22:46)
合計		9回	31回	12回		52回

注) 調査結果は、定点観察または移動定点観察により記録されたものを示す。



平成24年繁殖期におけるハヤブサの繁殖状況結果（2）

監視システム(常設ビデオカメラ)によるモニタリングの結果

- 設置した監視カメラ映像を用いてハヤブサの在巢時間を解析しました。
- 継続的な在巢時間と比較すると、平成19年繁殖期と同様に突出して長くなっていました。
- 平成24年繁殖期は、繁殖に成功しなかったものの、ハヤブサつがいは既存の営巣崖を継続して利用していることが確認されました。

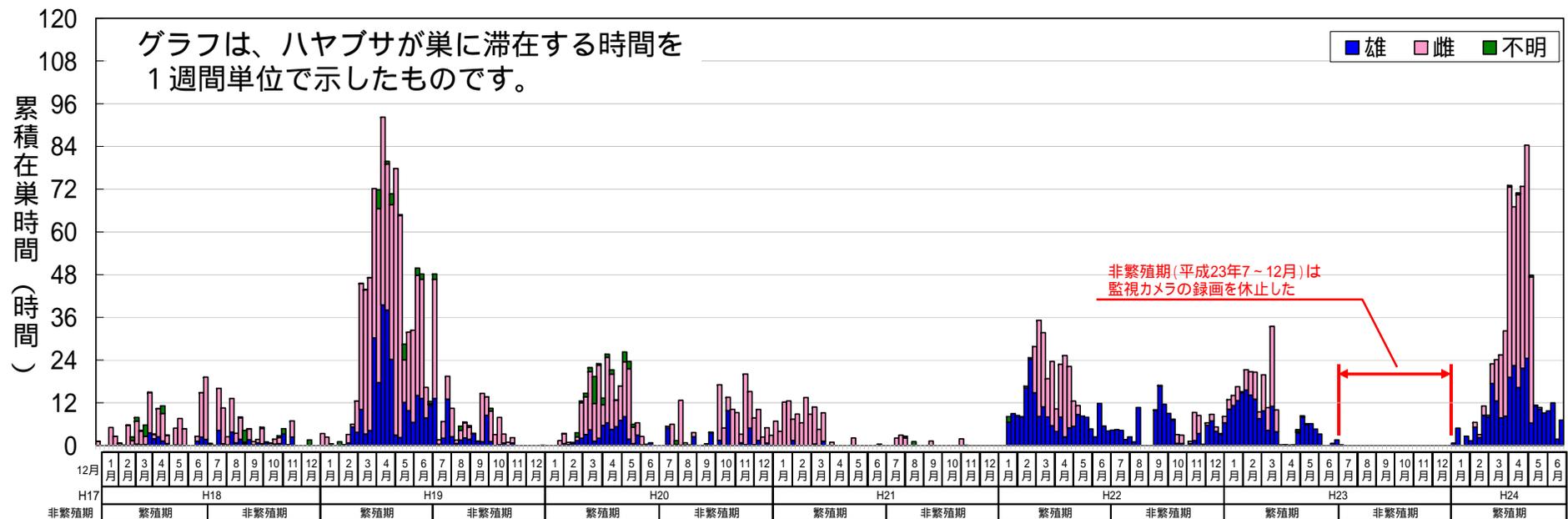


図 在巢時間の経時変化(H17.12.24 ~ H24.6.30)

平成24年繁殖期におけるハヤブサの繁殖状況結果（3）

平成24年繁殖期における繁殖失敗要因

- 監視カメラ映像を解析した結果、5月5～7日に巢内で争う様子(侵入者への攻撃)が確認されました。
- 5月6日の攻撃時の前後には、褐色の動物が動いているように見え、それに対して攻撃していると考えられました(1月12日、2月16日には営巣崖においてテンが確認しているためテンの可能性が考えられます)。



- 5月7日以降は確認時間が急激に減少していることから、テン等の小動物が繁殖を阻害した要因であると推察されます。

平成24年繁殖期における工事状況

工事内容

- 平成24年繁殖期(1月～5月)においては土砂等の運搬作業や橋台工が行われていました。
- 工事中もリラックスした行動や交尾、餌運び等の繁殖を示唆する行動が確認され、特に警戒するような行動は観察されませんでした。



今後とも引き続きモニタリング調査を実施するとともに専門家の意見を聞きながら、事業の進捗に合わせて保全措置を図り、ハヤブサの生息環境との調和を目指した事業の実施に取り組んでまいりたいと考えております。

*** 多数の人が営巣地付近に接近し、撮影行為等を行うことは、ハヤブサの繁殖活動を阻害することになるため、ハヤブサ等の飛翔状況、営巣地に関する情報の公表は、差し控えさせていただきますので、ご理解・ご協力をお願い致します。**